

当該研究分野区分		キーワード: ウィメンズヘルス, 理学療法
分野大区分:	保健	
分野小区分:	その他	

シーズのテーマ:

妊娠中および産後の女性のマイナートラブルと姿勢の関係に関する研究

【所属】	広島国際大学
氏名:	平元 奈津子
学部:	総合リハビリテーション学部
学科:	リハビリテーション学科
職階:	助教
連絡先:	n-hiramo@hs.hirokoku-u.ac.jp

【研究の概要】

妊娠中および産後の女性はホルモン分泌の変化や姿勢の変化が著しく、多岐に渡る身体症状(マイナートラブル)を訴える。マイナートラブルのうち、特に姿勢変化に伴うと考えられる腰痛、骨盤痛、尿失禁に悩まされる女性は多く、これらの身体症状は産後も持続し、慢性的なものに移行する産後の女性の抱える身体症状は多岐にわたり、多くは妊娠や出産がきっかけとなっているとも考えられる。

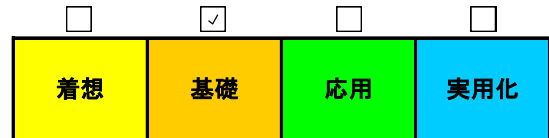
身体症状のうち腰痛、骨盤痛、尿失禁は罹患率の多い疾患であり、我々の実態調査より、日本において妊婦はこれらの症状に対しては積極的な早期治療が行われず、症状の長期化、産後に慢性化または重症化に移行していると推測される。

妊娠中または産後の女性の姿勢に影響を与える体幹のアライメントと筋機能に関して、従来の理学療法評価では客観的な数値で計測されることは非常に少ない。そこで妊娠中および産後の女性のマイナートラブル(身体症状)と姿勢の関係を明らかにすることで、産後の女性が抱える症状緩和への基礎的データとなることを目的とする。具体的には脊柱アライメント、筋機能測定として体幹筋の筋硬度および骨盤底筋群の筋収縮力を計測し、これらの結果と身体症状の関連を検討する。

【研究の特長・従来技術との比較】

客観的な指標を用いて臨床や集団検診で簡易で妥当性のある姿勢測定の方法を用いることで、多くの潜在的な症状を持つ妊娠中や産後の女性を早期発見できる。

【研究の状況】



【課題、今後の方向性】

【用途・効果】

・妊娠中および産後のマイナートラブルを予防、早期介入による改善が期待され、長期化する症状を予防(腰痛等では医療費の削減につながる)。

・妊婦健診や乳児健診を訪れる産後の女性に対して、症状発症の予防、早期治療を目的とした治療的介入が必要と思われる

【関連資料・文献・参考事項】

Okanishi N, Kito N, Akiyama M, Yamamoto M.: Spinal curvature and characteristics of postural change in pregnant women. Acta Obstet Gynecol Scand. 91(7):856-61, 2012.

山本裕子, 岡西奈津子, 木藤伸宏, 他: 産後の身体のマイナートラブルに対する理学療法士による運動療法の有用性, 理学療法の臨床と研究(18):15-22, 2009

岡西奈津子, 木藤伸宏, 秋山實利, 山本雅子: 妊婦の姿勢評価 非妊娠女性との比較. 理学療法学39 巻Suppl.2 Page0393,2012.